

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

10/10

論述ブースト No.1

医学部小論文を"論証"として書く —— 感想文から脱して採点者に刺さる答案へ

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。医学部小論文で「感想・体験談を書く」答案と「論点を立てて論証する」答案の評価の差を、採点者として何百回も目にしてきた。その経験が、この講座の設計に直接反映されています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医学部の小論文問題

東京大学・京都大学・大阪大学・地方国立大医学部の小論文では、「医療倫理」「医師の役割」「生命と科学」といったテーマで論述を求める問題が出題される。「論証として書く」視点を持つ受験生は、感想文で終わらず採点者に刺さる答案を書ける。

② 医学部推薦・総合型選抜の志望理由書・自己推薦書

「なぜ医師を志すのか」を問う書類は、医療課題への立場表明と論証として書くべきである。感動体験の報告で終わっている書類は、採点者（大学教員）の評価が低い。

③ 医学部推薦の口頭試問・面接

「医師になってどんなことをしたいか」という問いは、面接で必ず出る。論証の骨格を持つ受験生は、この問いに体験談だけでなく医療課題への立場で答えられる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学 医学部	医療倫理・生命科学に関する小論文	論証の骨格が感想文との評価差を生む
京都大学・大阪大学 医学部	医師の役割・医療課題に関する論述問題	論点の立て方が答案の完成度を根本から変える
地方国立大・私立大 医学部	志望動機・医療観を問う小論文	課題認識→立場表明→論証の流れが評価される
医学部推薦・総合型選抜（全般）	「なぜ医師を志すのか」型の書類・面接	採点者（医学部教員）に論証として伝わる答案になる

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

医学部小論文を「体験談や感想を書く場」と捉えている受験生は、採点者に「印象はよいが論証がない」と評価される。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）医療課題を論点として立てる習慣がつく、（2）課題認識→立場表明→論証の流れで答案を組み立てられる、（3）面接で「なぜ医師か」を論証として語れる、という変化が起きる。

何十年も小論文・面接の答案を採点してきた清光学院の講師陣は、医学部小論文で「感想文の答案」と「論証として書かれた答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。